

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2005年9月下旬から11月上旬までの旬別  
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業: さんま棒受網漁業  
 対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月下旬も増加し、10月上旬頃高水準でピークに達する。10月中旬には急減。10月下旬以降は低位水準となり減少を続ける。
- (2) 漁場: 9月下旬は、襟裳岬周辺にも漁場ができ、10月上旬には、落石沖～襟裳岬南沖にかけて広範囲で漁場ができる。10月中旬から落石沖の漁場は散発的となり、10月下旬以降は、襟裳岬周辺～襟裳岬南沖が主漁場となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月下旬・10月上旬と増加を続け、10月中旬～下旬にかけて中位水準ながらピークに達する。11月上旬は徐々に減少する。
- (2) 漁場: 10月上旬まで八戸～宮古沖が主漁場となる。10月中旬以降は漁場が三陸南部にまで広がる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬までは来遊量が少なく、漁場はできても断続的である。10月中旬は低水準ながら来遊はあるが、本格的に来遊するのは10月下旬以降となり、11月上旬には中位水準となる。
- (2) 漁場: 10月中旬までは、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬以降は、常磐北部～鹿島灘が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位水準	急減	低位減少	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	落石～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	襟裳岬周辺～襟裳岬南沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位水準	中位水準	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	断続的	低位水準	低位増加	中位水準
	漁 場	北部	北部	北部	常磐北部～鹿島灘	常磐北部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、8月下旬を下回り、前年並の低水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半は来遊量が少なかったが、8日にかけて来遊量はピークとなり、その後減少した。

##### (2) 漁場

落石南南東 20~30 海里付近の表面水温 13~17°Cが主漁場で、6 日夜のみ霧多布南東 20 海里付近の表面水温 15~16°Cへ漁場が移動した。期初めは、徐々に水温が高くなり、道東海域まで来遊する群れは少なかった。7 日夜は台風 14 号の影響で操業できなかった。台風通過後の 8 日は、水温が急激に下がり群れが濃くなったが、その後薄くなった。

落石沖の漁場は、5 日夜までは小型船が主体で 1 隻当たりの漁獲量は 0.2~13 トン程度。6 日夜は霧多布沖へ漁場が移動し 1 隻当たりの漁獲量は 3~13 トン程度。台風通過後の 8 日夜は大型船のみ操業し、1 隻当たりの漁獲量は 20~60 トン程度。9 日夜以降は再び小型船主体となり、1 隻当たりの漁獲量は 2~4 トン程度。

##### (3) 魚体

31~32cm の大型魚が主体。